みんながいるから今があるから

プロゴルファー
中溝裕子

みんながいるから 今があるから

2001年2月28日　第1刷発行

著者　中溝　裕子
発行人　川尻　勝則
発行　株式会社ホーム社
〒101-0051　東京都千代田区神田神保町3-29共同ビル
電話［編集］03・5211・2966
発売　株式会社集英社
〒101-0051　東京都千代田区一ツ橋2-5-10
電話［販売］03・3230・6393［制作］03・3230・6080
装丁　岡村　元夫
印刷所　図書印刷株式会社
製本所　図書印刷株式会社
検印廃止

本書の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。
造本には十分注意しておりますが、乱丁・落丁（本のページや順序の間違いや抜け落ち）の場合はお取り替え致します。購入された書店名を明記して集英社制作部宛にお送りください。送料は集英社負担でお取り替えいたします。但し、古書店で購入したものについてはお取り替えできません。

©YUKO NAKAMIZO 2001,Printed in Japan
ISBN 4-8342-5103-9
定価はカバーに印刷してあります。

みんながいるから今があるから

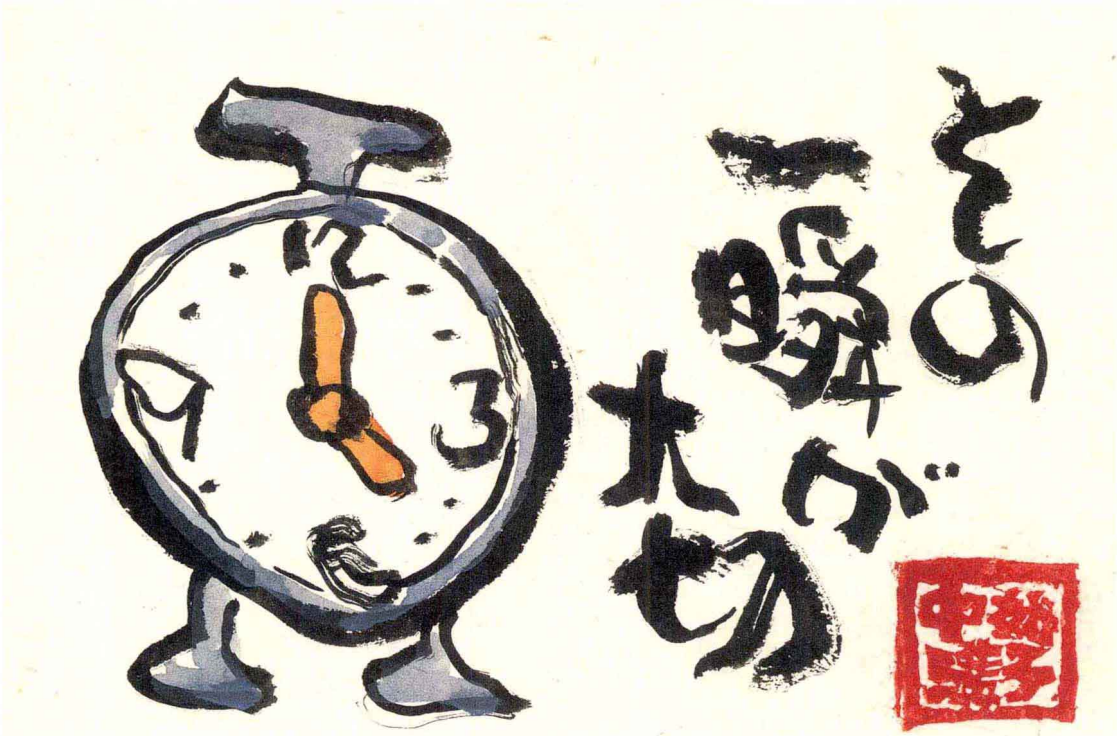
プロゴルファー
中溝裕子

中溝裕子（なかみぞ・ゆうこ）

１９６５年、滋賀県生まれ。滋賀県立能登川高校卒。
故井上清次氏に師事。
１９８８年女子プロテストに7回目の受験でトップ合格。
日本女子プロゴルフ協会入会。
90年宝インビテーショナル16位、91年東洋水産レディース13位などの成績を残す。
足立よみうり新聞に『ゴルフレッスン』を連載。
※彼女への義援金集めのために、過去3度のチャリティーコンペが開催され、トーナメント会場には女子プロゴルフ協会による募金箱が置かれている。

中溝裕子ホームページ
http://www.nakamizo-book.com

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com


その
一瞬が
大切

明日を
我が人生に
乾杯

母なる海
風の想いで
道ができる
風の吹くまま
思いのまま

あさごはん
めんぼう

みんなに
福が
届けば
いいな角

まえがき

東京女子医科大学 血液内科
教授 溝口秀昭

中溝裕子さんにはじめてお会いしたのは、平成7年5月25日のことでありますから、約5年半前のことです。血液に異常があるということで、先輩の医師から紹介されました。

プロゴルファーとの紹介でもあり、身のこなしも軽く、ご病気があるとはとても思えませんでした。

血液には赤血球、白血球、血小板があって、それぞれ大切な役割をしています。赤血球は酸素を体内に運び、白血球は細菌と戦い、血小板は出血を止めるなどの働きがあります。

中溝さんはこれらの血球が全て減っていました。

血球は骨髄の中で造られるので、血液の異常を調べ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

るには骨髄に針を刺し、骨髄細胞を採って調べる必要があります。その結果、骨髄異形成症候群という診断となりました。この病気は白血病の前段階とされ、骨髄移植が完全に治す唯一の方法です。幸い、妹さんと白血球の型（ＨＬＡと呼びます）が合っていて、妹さんの骨髄をもらえば移植ができることがわかっていました。しかし、妹さんは妊娠中でしたし、中溝さんも自覚症状はなくお元気にトーナメントに参加されておられましたので、すぐには骨髄移植はしないことになりました。

中溝さんはすばらしい体力と気力の持ち主で、病気など何するものぞという感じでありました。その頃、私もゴルフに熱を入れ始めた頃でもあり、スポーツ新聞を買ってきて中溝さんの記事を見たりしました。外来で私にもゴルフをコーチしてくれましたが、中溝さんがきりっとしたお顔で、さっと構えた姿は絵のようにすばらしいものでした。

その後、徐々に貧血が進行し、平成７年の７月頃から輸血が必要になり、輸血をしながらトーナメントに参加するという日が続きました。女子プロ協会の方もおいでになり、大変ご心配のご様子でした。平成９年になると輸血の回数も増え、週に何回も輸血をするようになりました。白血球減少による感染も繰り返すようになり、また出血も起こりやすくなり、骨髄移植を

行う時期がだんだん近づいたなと感じられました。

平成9年11月11日に入院され、12月3日に妹さんから骨髄をいただき、骨髄移植を受けられました。妹さんの骨髄はよく働き、減っていた血球はどんどん増え、貧血がよくなって輸血は不要となり、白血球も増え熱もでなくなり、また血小板も増え出血もなくなりました。血液型もAB型であったのが、妹さんのB型に変わりました。

しかし、その後骨髄移植の合併症のためなかなか退院できず、退院なさったのが入院されてから8カ月たった平成10年の7月7日でありました。それでよくなられるかと思いましたが、合併症のため1カ月たつかたたないうちに、8月13日に再入院されました。それから平成12年の4月27日までの1年8カ月の永きにわたって入院されるとは、予想もいたしておりませんでした。延べ、2年4カ月のご入院でした。

このように、長く入院された理由は移植片対宿主病という合併症のためです。英語では略してGVHDと呼んでいます。これは移植した骨髄の中にあるリンパ球という免疫を担当する細胞が、中溝さん自身のお体を攻撃することによるものです。GVHDでは皮膚、肝臓、消化管が障害されますが、中溝さんの場合には食道と口の粘膜の障害が強くでました。食道が細くなり、食べ物が通りにくくなりました。また、口の粘膜

が障害され、潰瘍となり痛くて食事ができない状態が続きました。

食道の狭窄は風船のようなものを食道に入れ広げることで少しよくなりました。しかし、口の中の潰瘍は難物でよい治療法が見つかりませんでした。ところが海外では紫外線で焼いて治すということを知りました。しかし、我が国の紫外線照射のための装置はとても大きくて口には入りません。そこでまた調査すると、昔、歯科で使っていた棒状の紫外線照射装置があることを知りました。それを海外から輸入し、中溝さんの口の中に入れ紫外線照射を行い、痛みがとれ、やっと退院されました。

骨髄移植をすれば難病はなんでも治ってしまうと思う方がおられると思います。確かに骨髄移植のない時代に助けることのできなかった多くの方々が骨髄移植で治るようになってまいりました。多くの方は60日から１００日のご入院でよくなられます。中溝さんのように長期入院される方はごく稀です。また、多くの方の善意で骨髄バンクもできましたし、臍帯血バンクもでき、また、末梢血管細胞移植という新しい方法も導入され、移植を受ける方はこれから益々多くなると思います。

このような方に、ご苦労なさった中溝さんの言葉は大きな励ましになると思います。また、長期の療養を

乗り越えられた陰には、骨髄を提供された妹さんのご努力はもちろんですが、お母様はじめご家族の献身的な看護があったと思います。

このように長いつらい入院生活にもかかわらず、中溝さんは終始明るくされ、ひとつひとつ問題を克服され、また、今回、ご本になったすばらしい言葉を書かれ、病棟に貼り、同じ病気で悩む方を元気付けておられました。頭の下がる思いが致しております。この度、その文を集めて出版されるとお聞きし、大変嬉しく思っております。おそらく多くの患者さんに勇気を与えることと信じております。

これからも、いろいろなことがあると思いますが、一日も早く元気になられ、すばらしいゴルフを見せていただくことを祈っております。できれば一度ご一緒させていただければと思っております。

２００１年１月

みんながいるから
今があるから

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com